



# 港 工 同 窓 会

## ニ ュ ー ス

第 4 号

平成17年 4月20日発行

発行責任者 前田武男

### 十七年度定期総会開催にあたって

港工同窓会会長

港三期(全電力科卒) 前田 武男

母校港工業高校を失ってから二回目の定期総会を迎えました。この間港工同窓会は、後継校六郷工科高校に、ご迷惑をかけながらどうか活動して参りました。

六月十二日に六郷工科高校にて九十一名の参加者を得て「十六年度定期総会」を開催しました。六郷工科高校の萩原和夫校長先生のご挨拶をいただき、先生は在校生につき「彼らがやがて卒業して同窓会組織を作る際には指導して欲しい」と言及されたのが印象的でした。第一部「議事」を無事終了し会場を羽田東急ホテルに移し、第二部「懇親会」を盛大に挙行しました。新会員の参加で会場に華やきを得ました。

十月十六日に六郷工科高校の「開校記念式典」に参列しましたが、在校生の一年生だけとは思えぬ堂々とした言動には、先生方やママ(家族と教師の会)の皆さんの並々ならぬご指導の賜物と感じました。式典後に、充実した校舎内を見学し、実習室、体育設備や食堂などに感嘆

しました。

十月三十日、三十一日の両日、六郷工科高校の文化祭にも港工同窓会をアピールすべくブースを設置しました。

さて、このような一年間で、我が同窓会は、準母校と考える六郷工科高校に対しお役に立っていないことが残念です。六郷工科高校の特に新しさを誇る、デュアルシステム科に關し若干のお手伝いが可能でした。この件では会員諸氏のご協力に頼る必要を感じています。

周囲環境に沿った会則の整備も気がかりです。理事会は、手弁当で年間二十回にも及ぶ会合を持ち、会員諸氏と、より強い絆を求め努力しています。今度、新たに港工同窓会の「ホームページ」を開設します。先に「同窓会ニュース」を発行し、クラス会等に資料提供をしたり、会員間の意見交換等の場に供すべく努力中ですが充分機能していません。会員諸氏のご利用を期待します。ただ、年間二度の発行が予算の関係で難しいのです。全ての活動が、賛助会費に頼っています。しかし賛助者がしだいに減少しております。自然消滅だけは避けねばなりません。会員諸氏のご協力を重ねてお願いいたします。

### ◆平成17年度定期総会

今年度の総会は、新設校校舎内で開催いたします。どうぞ校友お誘い合わせの上、ご参加されるようご案内申し上げます。

記

#### 日時

平成17年6月11日(土) 13時より  
(幹事の方は12時までに集合)

#### 場所

総会 六郷工科高校

2階会議室 13時～

(京浜急行「雑色」下車徒歩3分)

懇親会 サンカント・ベル

(五十鈴ビル2階)

15時～

(学校から国道沿いに徒歩10分)

#### 会費

6,000円

(当日受付へ納入願います)

#### 内容

平成16年度事業・決算

報告、新役員の承認

平成17年度事業計画・予算案

の承認、その他

※準備の都合上、5月末日までに同封はがきにて出欠及び転居等近況のご回答をお願いします。

## 開校のび挨拶

六郷工科高等学校長 萩原 和夫



本校は昨年四月に開校し、第一回入学式を行いました。全日制課程四学科五学級、デュアルシステム科一学級、定時制過程二学科二学級の規模です。

母体となる港工業高校、羽田工業高校・羽田高校の定時制過程を受け継ぎ、同校の伝統を見習いながら新たに単位制の工科高校を発足しました。現在、都立高校は改革の只中にあり、工業高校は今年度よりアドバンス・テクニカルハイスクール構想がスタートしました。

この構想のもと、本校は生徒の個性の伸長と地域との連携をめざした教育方針で、新しい発想の教育課程を編成しています。特色は、第一に生徒の学習希望や進路選択に応じた

多様な選択科目を設定します。第二に、基礎基本の学力を定着させ、職業意識を身に付けさせます。第三に、生活指導を徹底させて社会性を育みます。そのために全校生徒に学校設定科目「学ぶことと働くこと」を指導して社会の期待に応えます。

とりわけ、デュアルシステム科はドイツの職業教育制度をモデルにした日本ではじめての実践的な教育制度です。学校と企業が提携し、生徒を企業に派遣して技術技能を訓練します。学校教育の一環で、訓練したことを修得単位として認定します。今年度からは八週間の長期就業訓練が開始します。協力をいただいている企業は、大田区品川区の製造業を中心に多岐にわたっています。この制度に関心をお持ちの方はご連絡下さい。

終わりに、港工業高校同窓会の皆様には本校の施設を活用して、活動していただいています。貴会のますますの発展を心から祈念いたします。

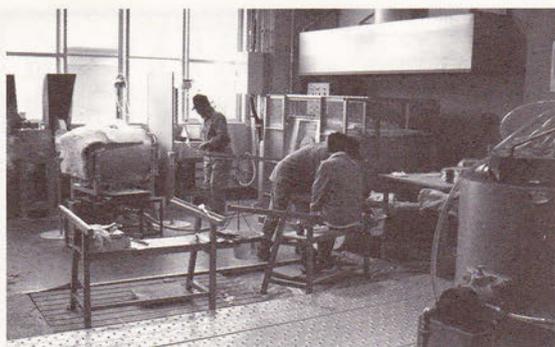
事務室長 安部 和夫

平成16年度も年度末近くなり、このところぼつぼつと、港工業高校を卒業された方から、各種証明書発行の問い合わせが続いています。大学

を目指す方、電験等の資格取得をめざす方などいろいろですが、閉校になったため、連絡先が分かりにくく、何度かたらいまわしされた上での六郷工科高校への問い合わせにもかかわらず、社会人の方はもちろん、若い方も皆礼儀正しく、気持ちよい対応をさせていただいております。充実した港工業高校教育を実感しております。

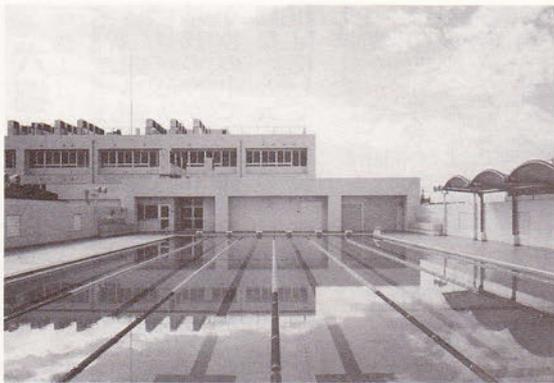
さて、昨年4月に開校した本校もまもなく2年目を迎えるようになっています。おかげさまで、新しいタイプの工業系専門高校としての存在が徐々に広まりつつあると思われれます。港工業高校を始め、羽田工業高校、鮫洲工業高校を母体校として開設された本校は、近年に於ける都立工業高校の状況とは少し違った、ある意味では現在50代以上の方が嘗て

学ばれたような熱い教育を目指しているともいえます。ものづくり離れを反省し、技術立国を再生しようという天の時と、先端企業が集まっているこの城南地域の第二京浜国道沿いに、駅から3分という地の利を得て、更に施設のにも、困難な都財政の下で例外的に新築された校舎では、港工業高校をはじめ各校から機材を移設しつつも、多くの最新機器の導入を図ることができました。



ガラス炉の実習室

冷暖房完備の自動車整備・製作実習室は一見の価値があります。最先端ソフトウェアを装備した画像処理室や、CAD・CAM、レーザー加工機、マシンングセンター、都立高唯一のガラス炉など枚挙に遑がありません。今後も、新年度に向けて、新たに六尺旋盤12台を導入し、検定や競技会への備えも充分となりました。41台を備えたPC室もできます。産業界と併せて地域との連携も重要なコンセプトです。開かれた学校を展開しておりますので是非HPなどをご覧ください。授業公開日などにおいでください。



プール



都立六郷工科高校校舎



剣道場



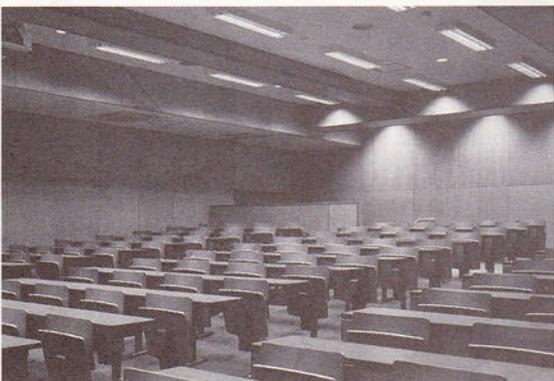
アリーナ



ネットワーク実習室



アプリケーション実習室



視聴覚室



機械加工実習室

### 六郷祭に思う

港13期(定) 電気科卒 西原 要四郎

新しいもの、初めてのものって気持ちの良いものです。六郷工科高等学校の今が「それ」です。学校と云う枠の中の生徒達のお祭りが「六郷祭」と云う命の基に文化祭が催され開校して半年余りの成果を拜見致しました。

爽やかで、明るくて、元気よく、まるで小学校へ入学した一年生と云うような初々しさを感ずる素敵な会場でした。

何も無い処での発想と企画の妙にワクワクする楽しさを与えられたように感じました。

私の関心事は初めての試みであるデュアルシステムの進捗の様子を拜見する事でした。「0からの発進」が立派に推進されているのを拜見できて感激いたしました。

玄関を入ると港工高から走って(??)来たフォードが来校される方々をお迎えしています。

自動車の運転免許証を初めて取得して、車に乗り、ドキドキしながらハンドルを握り恐る恐るアクセルを踏み込んで動き始めたときのような感動がありました。玄関に展示されているフォードに限らず実習場にあ

る自動車を始め数多くの実習機材が夫々の場所まで港工高の匂いを振り撒いていました。少々誇りを持ち胸を張って見て歩いているように思いました。

新しいシステムの導入と云えば工房や科目の呼称などにも今までの高等学校では珍しく画期的な学校であると感じました。

今年の文化祭の主役は一年生だけです。来年、再来年と今年の一年生が上級生になって、即ち三年後の六郷祭を催すことになった時に「今日」と云う日を振り返ってくれるのだろうか? それらを見る私はどのようなか? に見て廻る事が出来るだろうか? と考えながら徘徊していました。

学んだ知識で、形を考え、物を創り、その過程を楽しむ、結果を喜び、元気に、大きな声を張り上げて駆け回っている様は何事にも変えることの出来ない青春の一ページを感じさせられました。

初めての方式を取り入れた新しい学校、その学校の一年生だけで：まさに「0」からの出発だと思えました。夢いっぱいの一昨日でした。

### 六郷祭に参加して

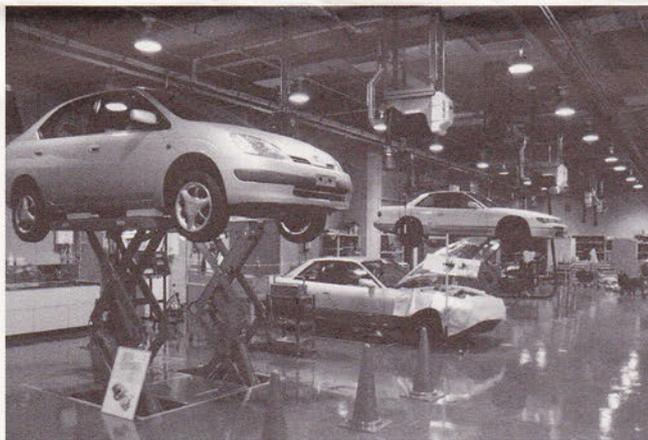
港8期(全) 機械科卒 赤川 秀夫

一昨年の秋、同好の人達と数艘のカヌーで多摩川を大師橋先まで往復遊漕した折、完成間近い新しい校舎を遠望する機会をえた。川面から眺めた時、以外と多摩川に近いロケーションに在ることに気付き、いずれ訪れたいとの想いがしました。

そして、昨年10月30、31日(土、日)新校舎で行われた、記念すべき第一回文化祭、港工高同窓会諸氏と共に同窓会コーナー開催で訪れることが出来ました。

実行委員会、生徒と教職員によって六郷祭と名付られ、1年生(1期)、同好会、委員会、教科、有志、定時制、等の団体がそれぞれのテーマで企画、設営、運営され、男女校のためか、明るい朗らかな雰囲気と真摯な態度が感じられました。

特に工科高校でありながら短歌コーナーでは若者の感覚を素直に表現したものが多く来年が楽しみです。又ガラス工芸コーナーも未だ稚拙な技術ですが将来優秀な作品がでてくると思



自動車実習室

ます。最新の設備、教育資材、IT化、等、昔日の想いでした、孫と同じ年頃の生徒諸君が先生、職員の方々と新しい歴史と文化を創りだしてくれることと、二期生を迎え素敵な都立六郷工科高等学校になりますよう。又、来年会えるのを楽しみにしております。

### 開校式典に参加して

会計理事 旧職員

港3期(全)電力科卒 加藤 琢二

昨年10月16日、前身校の同窓会理事として招待され、会員諸氏の代表として都立六郷工科高等学校の開校記念式典に参列した。記念式典は「式典」「記念講演」「記念演奏会」の3部に分かれ、体育館で華やかに営まれた。広い会場の3分の1が生徒達で、残りに、地元都区会議員、区長、区教育長、都教育庁役員、都立高、区立中の校長先生方が、居並び、私達はその末席に就いた。式典は、開式の辞により厳肅に始まり予定通り順調にすんだ。生徒達は大人しく順応していた。在校生代表は、一年生らしくなくしっかりと挨拶を述べた。上級生



が居ない環境が、生徒を半年で遅く育てたのだろうか。

記念講演は、校章のデザインをした工芸高校OBの福田哲夫氏が校章が洋々たる将来を暗示する意義を説いた。私はこの時港工業の六輪の校章を思い浮かべていた。

記念演奏会は、生徒の和太鼓と都立つばさ総合高校の吹奏楽団が客演演奏をした。

式後、校内見学で、懐かしい母校の実習機材にお目にかかった。

### 緑園の天使

港6期(全)電力科卒 栗原 眞平

誰にでも青春の日に見た心に残る映画があると思います。「緑園の天使」それは正に私が忘れることのない名作です。

物語は、1920年代のイギリスの或る寒村が舞台で、馬に恋した少女がおりました。元騎手で落馬を経験したことから廃業して放浪の旅をしている青年と出会い、身体能力の優れた馬を見出し、調教して競馬界で最高峰の「グラント・ナシヨナル」レースに出場出来るまで漕ぎ着けますが、そのように無名の馬に騎乗してくれる騎手が見つかりません。

グラント・ナシヨナルは32か所の障害が設定された距離5マイルの障害レースです。万策尽きた末、その少女が髪を切り男装してレースに臨み、何と優勝してしまいますがゴール直前、大望が叶った安堵感から失神、落馬してしまいます。医務室で手当を受けますが、その時女性であることが発覚して記録は取消され、そして騎乗したまま馬場を退場することがルールでした。

その少女の母親も、少女時代にドーバー海峡泳泳レースで優勝しており、密かに保持していたその賞金を「娘の夢の実現」に差し出すなど、家族愛を土台にした心温まる物語でした。エリザベス・テイラーがその少女を好演しており、彼女はその後、皆様ご存じの通りの大女優に成長していきます。そして私は彼女のファンになり、その後の出演映画の殆どを見ることになりました。

この映画を「港工校の生徒全員で鑑賞しました。」と申し上げたら何人の方に信用して頂けるでしょうか。映画館の名称は残念ながら失念しましたが、銀座8丁目の博品館劇場の裏手に当たる場所で、一般公演前の朝9時頃に貸切りで上映して貰ったように記憶しております。私ど

も港6期生は今年が丁度、卒業後50年に当たりますし、確か一年生の時でしたから半世紀以上昔のこととなります。感受性の最も豊かな年頃ですし、映画が最大にして唯一の娯楽だったこの時代に「粋な計い」をしてくださった先生がおられたことに感謝しております。学業の習得だけでなく、心の成長にも配慮して頂けたことに改めてお礼を申し上げます。

平成16年 8月

### 計 報

本会初代会長 久保田 鉦雄様には平成16年6月6日逝去されました。

久保田様は高輪工業第二本科機械科第1回(昭和13年)卒業生で、昭和24年本会の発会以来、昭和64年まで40年間の長期に亘り会長職を勤められ母校の発展に貢献されました。

ここに、大先輩のご遺徳を称え、感謝すると共に、謹んでお悔やみ申し上げ、会員諸氏にお知らせいたします。

港工同窓会 二代会長

前田 武男

## 『記憶の旅』 抜粋

昭和27年電気科卒 羽根 高廣

昭和二十年四月 阜新在満国民学校を卒業し阜新中学校に入学した。

日本内地と同じように軍事教練の配属将校も居て軍国主義教育に力を入れていた。小学校から軍国教育を受けて来た私たち年代は殆どが予科練、海軍兵学校、陸軍士官学校などを目指していた。しかし、これらは中学三年か四年にならないと受験できない。中学一年で受験できるのは、陸軍幼年学校しかなかった。

当時、学校の正規授業として軍事教練のほかモールス信号や手旗信号が教えられた。また音楽は音感訓練で爆音を聞き分ける能力を養うものだった。それは、ドミソなど三音を同時に聞かせ、その三音を当てさせるものだった。その能力によって飛行機の機種を判別できた。英語は敵性外国語としてすでに廃止されていた。

五月初旬 すでに四十二歳になっていた父が突然、現地召集され最下位の陸軍二等兵として入隊した。東京市役所から満州生必に移った父に兵歴は全くなく、この召集は戦局悪化で満州から南方に転出した関東軍

(帝国陸軍最精鋭といわれた)の単なる穴埋め、員数合せだった。

父の入隊直後、面会に行った私は陸軍幼年学校受験を相談した。父は不承不承、これを認めた。阜新中学で幼年学校受験は四人居た。四人は九月入試を目指して猛特訓を受けた。特訓は主に数学と物理だった。当時、日本の中学校には生徒を競って軍の学校に送り出す風潮があり、いわば軍の予備校だった。

八月九日 長崎に原爆が落とされたこの日、ソ連軍が満州の国境を超え各方面から一斉に攻め込んで来た。まさに破竹の進撃である。迎え撃つ筈の精銳関東軍はソ連参戦を全く予期せず、すでに南方に転出してもぬけの殻！残って居たのは父のような案山子の兵隊ばかり。武器もなく、まともに応戦する力がない。何しろ父が五月に入隊する時、「日本刀などの武器があれば持参せよ！」という何とも情けない通達を受けていたぐらいいだから。

八月十四日 夏休みはなく、阜新中学で幼年学校受験の追い込み特訓を受けていた。受験場所は奉天

(現・瀋陽)の予定だった。とはいえ、すでに蒙古方面から進撃を開始したソ連の一軍は阜新の間に迫っており、緊張は極点に達していた。

八月十五日 中学からの勤労働員で何か土木作業のような事をさせられていた。塹壕か陣地作りの一部だったかもしれない。だから正午に詔勅放送がある事は知らされていたものの放送は聞けなかった。携帯ラジオなども全くなく、据え置きラジオ(並四球)でさえ、数軒に一台の時代である。午後4時過ぎ学校に戻って敗戦らしき事を知らされたが、殆どが半信半疑だった。

八月十六日 中学に登校。敗戦はすでに確定と受け取られており授業はなかった。配属将校はすでに若い陸軍中尉から中年の温厚な陸軍大佐に代わっていて、その大佐が「日本は負けた。君たちがこれからの新しい日本を担う。軽率妄動せず、命を大切にせよ！我々軍人は消える」と述べた。そして学校は自然消滅した。

八月十八日? ソ連軍が阜新に入ってきた。少年兵や女性兵も多く一兵卒に至るまで総ての兵士は自動小銃(通称マンドリン)を持ち、拳銃も腰に付けていた。日本軍では見た事がない兵士の重武装だった。そして勝手気侷に所かまわず発砲

した。兵士たちに軍規はないに等しく、あちこちで略奪、婦女暴行を繰り返していた。私が卒業した国民学校の若い女性教師も被害にあい直後に青酸カリを飲んで自殺した。当時、日本人は殆どが自殺用の青酸カリを持っていた。被害は日本人だけに止まらなかった。女性は髪を切り落して丸坊主になり顔をわざと汚くして男を装った。私たちにはすぐ判るがソ連兵には見分けがつかない。

取り締まりの憲兵も居たが手が回らないのか、単に時計を略奪しただけの複数の兵が逃げようとしたところ、驚いた事に即座に発砲、動けなくなつた兵士にそれぞれ止めを撃ち、いとも簡単に殺すのを目撃した。八月二十日 この頃から日本人住宅が一般大衆の襲撃対象になり、数百人が一軒の家に押しかけ金品はもろろん家具、畳、床材まで略奪するようになった。一軒が終わると次の家という具合でそれが遠目に望みできた。彼らは日本への永年の恨みをことうして晴らしていたのだ。

八月二十一日か二十二日 わが家は生必の社宅で隣接して生必の大倉庫があった。倉庫には砂糖が充満していた。ソ連軍はこれに目をつけ憲兵が常駐するようになった。社宅と同じ隣組の土建業・神開組の人々と

共に私たちは彼らを引き留めようと  
 欲待に勉めた。しかし、一週間ほど  
 で砂糖の搬出は終り、彼らは引き上  
 げてしまった。

八月三十日？ ソ連憲兵が居なく  
 なれば当然、略奪襲撃に曝される。  
 その波はすでに道ひとつ隔てた筋向  
 いまで来ていた。

この時点で日本人の大部分は旧日  
 本憲兵隊本部に寄り集まって居た。  
 建物は何棟もあり、隊員宿舎や拘置  
 房など合わせて千人ほどの収容力が  
 あった。三十人ほどの隣組全員でこ  
 の収容所に合流した。隣組の行動は  
 神開組の藤堂社長がリーダーになり  
 指揮した。五十年配の藤堂さんは沈  
 着冷静、判断は的確で収容所に合流  
 後も全体を考えた公平なリーダーぶ  
 りを發揮した。それに比べてかつて  
 の特権階級のエリートなどは自己保  
 身と利己主義に走るばかり、特に貴  
 重な食料分配などに彼らの浅ましき  
 が如実に見られた。

この頃から敗戦直前に父と同じよ  
 うに現地召集され、入隊していた中  
 年兵士が一人、また一人と戻って来  
 るようになった。みな服はボロボロ、  
 やつれ果てていた。聞けば、隊長の  
 判断で現地解散になったとか、ソ連  
 軍に連行される途中、監視兵の目を  
 盗んで逃げて来たとかだ。場所にも

よるが、延々数百キロを徒歩でやっ  
 と辿り着いたのだ。靴はみな擦り切  
 れていた。だが神経痛を患っていた  
 父は戻って来ない。消息もまるでな  
 かった。

収容所に入ってから度々ソ連軍の  
 労役に狩り出された。まとまった労  
 働力が只で得られるからだ。労役の  
 内容は工場設備の解体と搬出だ。私  
 は火力発電所の解体搬出をさせられ  
 た。何回か労役に行くうちソ連兵を  
 ごまかす術を覚え上手にサボルよう  
 になった。何しろ二列以上に並べば、  
 掛け算が出来ないため人数さえ数え  
 られない。こうして重工業、軽工業  
 を問わずめぼしい物はみなソ連に持  
 ち去られた。

この頃、私たち少年仲間は数ヶ月  
 前から流行って来た歌『勝利の日ま  
 で』を地平線に沈む夕日を眺めなが  
 ら、涙と共に歌っていた。

「丘にはためくあの日の丸を、仰  
 ぎ眺める我等の瞳、何時かあふるる  
 感謝の涙、燃えて来る来る心の炎、  
 我等は皆、力の限り、勝利の日まで  
 勝利の日まで……」。何とも切なく  
 悲しい挽歌だった。

九月中旬 もう共同で炊事する食  
 料が底をついた。千人分の食料など  
 敗戦国民には誰も調達する方法がな  
 いのだ。まず犠牲になったのは乳幼

児、そして病弱者、老人が続いた。  
 最初のうちこそ火葬にしていたが、  
 燃料もなくなつて埋葬しか出来なく  
 なった。凍土の冬は埋葬すら出来な  
 い。

九月下旬 生必阜新支店で苦力  
 (最下層労働者) をしていた鄒さん  
 と高さんの二人が収容所に尋ねて来  
 た。そして鄒さんが「ここに居たら  
 死んでしまう。ジャンゲイ(旦那)  
 には世話になった。家族を死なせる  
 訳にいかない。俺たちで何とかする  
 からここを出ろ」という。確かに収  
 容所には死が迫っている。しかし私  
 たちは迷った。何の財力もない苦力  
 に果たして頼れるだろうか？と。決  
 め手は鄒さんの心がこもった表情だ  
 った。

初めは鄒さんの家に同居した。纏  
 足の老母と、お腹が大きくなった奥  
 さんの三人に、私たち四人が加わり  
 窮屈になった。そこで鄒さんと高さ  
 んの二人は自分たちの住まいに隣接  
 して私たちの住まいを造ってくれ  
 た。日干しレンガを積み上げたオン  
 ドル付きの小屋だ。住まいは出来た。  
 さて食う事だ。鄒さんは私たちに麵  
 打ちと餃子造りを教えた。これを屋  
 台で売るのだ。鄒さんは材料の仕入  
 れから道端での売込みまで、何でも  
 先頭に立ってやってくれた。おかげ

で食う事も出来た。

当時、日本人の面倒を見るなど中  
 国人社会では非難された。つまり、  
 日本人は侵略者・加害者である。  
 「そんな者に構うな！裏切り者！」  
 というのだ。そのため鄒さんは私た  
 ちを庇って中国人と喧嘩さえした。  
 蛇足：もし全文をお読みくださる  
 方は私のホームページへ。

私のURL  
<http://www.geocities.jp/hanetakahiro2004/>

### ◆会報への原稿お願い

母校が閉校となり、今後は  
 「同窓会ニュース」が会員親睦の  
 テーブルになります。皆様から  
 の声を聞き、ご意見・ご要望に  
 沿って拡充を図ることが大事で  
 はないかと存じます。

転居連絡からクラス会、クラ  
 ブ仲間のこと、恩師・級友の消  
 息等また在校時の思い出、クラ  
 ブ部活動や当時の周辺状況等々  
 お寄せ下さるようお願いします。

# 海外トレック

昭和32年(定) 電気通信科卒 高林 功



K2峰 (標高8,611m) 世界で2番目に高い山です。バルトロ氷河(標高4,700m付近)にて撮影

0M)へは、イスラマバード空港からバスで2日間インダス川沿いのカラコラム・ハイウェイを北へ約400Km走り観光リゾートで雄大なスカルドウに入り、更に、3日目はジープで急峻な渓谷を走った。途中先頭のジープの前で大きな土砂崩れが発生、落石が止むまで数時間待って、谷底に傾く土砂の上を徒歩で越え、対向のジープに乗継いで何とか日没までにアスコレに到着した。

生まれて、初めて山に行つた写真を懐かしく見ています。

今から49年前の1955年5月5日、港工の時代、加藤木先輩に連れられて同級生の後藤君と丹沢勘七の沢を廻行した記念すべき日です。

3人は草鞋を履いて、先輩はハンチング、後藤君は丸い登山帽そして私は学生帽で港工の徽章が光つてい

パキスタンの北方地域、中国チベットとインドの国境にあるカラコルム山脈、この核心部を流れるバルトロ氷河(全長約60Km)を20日間かけて往復し、最奥のガツシヤブルムII峰BC(標高約5100M)まで入りました。  
バルトロ氷河の入り口、人が住む最奥の村アスコレ(標高約300

ます。

初めての山行きが沢登りです。この日以来、山に魅せられ山岳部に入部、卒業しても高い山を目指して日本雪稜山岳会に入会し、山と会社が両立するように「ラッシュ登山」を提唱して谷川岳や穂高、冬の後立山へと登つたものです。24歳の頃になつて、会社と山の両立が難しくなつたり、今まで何の躊躇も感じなかつた登山に恐怖を感じたりして、「ブツツリ」と山を止めてしまいました。当時は、未だ敗戦復興期で外貨が無く個人のヒマラヤ行きは夢の又夢で、国内で厳冬の岩壁を何回も連続登攀してその距離を合計してヨーロッパアルプスに匹敵した登りを実践した第2次RCCと云う会が発足した時代でした。

それから四半世紀以上過ぎた、1997年7月、思いがけず、昔の日本雪稜山岳会の仲間から「日程に余裕が出て来た、停年の仲間が多く成りOB・OG会を再開したい」旨の電話で36年ぶりに熟年登山が始まつてしまいました。

今年で、登山を再開して6年、66歳、体力が衰えない内に遠い昔の夢を何とか実現したいと思ひ、日程も自由に取れるメンバーでヒマラヤ奥地のカラコルム方面のトレックを計

画し、お蔭さまで、8月中旬から一ヶ月間のバルトロ氷河のトレッキングを無事に終えることが出来ました。

山を知る前は、ラジオや短波無線機を作つて真夜中に海外のDXなど、若いのに不健全な生活に没頭していたように思います。山を教えて頂いた加藤木先輩には大変感謝しております。又、山岳部の矢鳥先輩はカナダにお住まいとか、是非先輩の皆様にお逢ひいたしたいと思ひます。

平成16年10月1日 記



ムスターグ・タワー 中央・左<7,273m>

# 同窓会の近況

## 旧(事務)定

村井 源治

いつもご丁寧な通信を有難うございます。今回も所用があり欠席します。

先日、ボランテアアのイベントの下見で愛宕山へ行つた折り、港工校舎を外から拝見。写真を撮り、お別れをしてきました。

## 旧(保健)全

関口 敦子

同窓会ニュース、懐かしく拝見いたしました。立派な会報に、役員・編集者のご苦労と熱意、港工の歴史を改めて伺い知ることができました。

今後とも、同窓会の益々の発展をお祈り申し上げます。

## 旧(社会)定

藤崎 ミヤ子

港工同窓会ニュースと総会のご案内をありがとうございます。閉校式は、現任校の卒業式と重なり伺うことができませんでしたが、盛会であったよし、港工の重ねてきた歴史の重み、存在意義の大きさの結果であ

ると、旧職員の一人としてたいへん誇りに思います。同窓会の成功と発展をお祈り申し上げます。

## 旧(国語)全

矢部 玲子

閉校式では懐かしい皆様にお会いすることができまして、大変楽しいひとときを過ごすことができました。ありがとうございます。

## 旧(機械)定

桐野 勝利

同窓会役員の皆様、ご苦労様です。

私は、現在、羽田工業(定)の所属で六郷工科高に同居しています。今年、港工(全)から異動された機械科・木村先生、自動車科・上野先生、渡辺先生と親しく交流を深めています。私の教え子も30才を超えました。年賀状のやりとりはありますが、皆元気でいます。

総会には出席させていただきませんが、羽田工業(定)も、あと3年ですが、私が六郷にいる間は同窓会に協力させていただきますので、当日声をかけて下さい。

## 旧(教頭)全

江部 明夫

私は、現在LEC東京リーガルマインドの専任講師をしています。公務員試験受験の対策講座で「化学」を教えています。

## 旧(国語)定

持田 ひろ子

思い出を刻んだあの建物ともとうとうお別れ。あとはどうなるのでしょうか。何年かのち、もう一度訪ねてみたいという気になるかどうか。思い出に生きる年になると悲しいことがふえます。

## 旧(事務)

国分 賢司

現在は小山台高校に勤務しています。

港工では5年お世話になりましたが、初めての年度の2月、地下鉄サリン事件が起き、隣の慈恵医大に多数の救急車が飛び込んできたことが印象に残っています。

皆様のご健勝、ご活躍を祈念します。

## 麻布第一本科1期

福留 行則

麻布本科一期生の消息も、集まり

も少なくなり、顔を合わせることも無くなりました。皆80才を越えてから出歩くことが不自由になったからです。

## 高輪第一本科1期

柴田 信夫

事務局の皆様ご苦労様です。明治39年の創立以来幾度の歴史の変遷を経て六郷工科高校開校を思うと感無量のものがあります。良き伝統を築き発展を祈ります。

## 高輪第一本科5期

鶴 勉

我々S21年輪工卒業者の現況は、A組35名、B組37名内消息不明者、ABで15名。H13年に有志10名でクラス会を実施したが、早や3年経過し鬼籍に入った者もあり。真に高輪は遠くなりました。

港工同窓会の益々の発展を祈る。

## 港 全日制6期

石川 浩久

先日(4/18)卒業50周年記念として、熱海にて1泊の6C会に出席しました。幹事は、望月、落合、永森の各氏で17名集まりました。皆元気で、にぎやかでした。

港 定時制10期

永井 勝雄

10期卒業生による懇親会を毎年8月最終日曜日・東京大丸(12F)にて定例的に開催中。(高橋光春先生も毎年出席している)

10期電通科卒業生による忘年会を12月第1土曜日に定例的に開催中。

港 全日制11期

柏木 邦宏

11期E2クラスは、当時担任だった三留先生(現在は亡くなっている)の御名前を借りて、「三留会」なる同窓会を持っています。

3年に一度会合を行い、丁度今年は6月12、13日は箱根へ行くことになっていました。三留会には20名、30名程度集まりますので、いつも当時を思い出し話しをしております。

小生現在、東洋大学工学部電気電子工学科 勤務。

港 全日制12期

猶井 誠

同窓会ニュースNo.3ありがとうございました。感慨深く各氏のご発言、ご投稿を読ませていただきました。

閉校は時の流れといえは簡単ですが、万感の想いもあります。新校の出版を祝するのみです。

港 定時制14期

遠藤 忠雄

大変お世話になっております。60才を過ぎましたが現在、現役でバリバリ働いております。

6月には三津田宏先生とクラス会を予定しております。クラスの方16名出席です。11年ぶりに皆様とお会いすることとなり、また皆様から沢山の活力を頂いてこようと張り切っております。大変楽しみです。

港 全日制16期

箕田 茂

16期E1の名簿を作りつつあります。出来次第送らせていただきます。同窓会の盛会をお祈りいたします。

港 全日制40期

坂本 康治

年に2回くらいニュースを発行していただけという感じです。若い方があまり出席してないので残念に思います。なにかもつとちがった集いがあればと思います。いつもご苦勞様です。

同窓会ホームページ開設

最近、インターネットのホームページに、学校の内容や同窓会の様子を、新聞と同様に表示して利用しているところが多く見られるようになり、急速に発展・変貌したパソコンに今更ながら目を見張る思いがいたします。

この新しい発想は、従来の新聞の発行から郵送、配布の流れと比較し

て、利便性、即応性、経済性に優れているところがあるためと思います。

この度、港工同窓会ニュースもこのホームページを開設して、新聞という情報の流れをよりよいものに変えていきたいと考え、早速理事会に提案いたしました。結果、段階をつけて作成していくことに決まりました。なお、開設は6月頃を予定しております。



# 港工同窓会



六郷工科高校	卒業証明 〒144-0046	文化祭 大田区東六郷 2-18-2	アクセス
港工同窓会	会則 〒278-0036	役員 千葉県野田市中野台麓島町 23-7 麻打ビル5F内 松岡信之	年間行事
会員専用ページ	TEL 0471-25-6808	FAX 0471-25-6851	
	14年春ニュース 近況報告1 増産番号及び	15年春ニュース 15年秋ニュース 16年春ニュース	必要です Adobe Reader (無償) が お知らせ 2005/03/31

(会員専用のパスワード 3710)

- 賛助金のお礼・協力のお願い  
多くの会員様より賛助金の協力を頂いております  
賛助金は同窓会運営資金です  
今後ともご協力の程宜しくお願い致します
- 同窓会運営：同窓会ニュースの発行  
：同総会案内はがきの発行  
：文化祭案内はがきの発行  
：ホームページ作成
- 平成17年度港工同窓会の総会案内  
六郷工科高校で行う予定です

◎会員名簿の発行に関して

会員から同窓会名簿発行のご要望が多数ありますが、昨今の情報漏洩問題から当面は全体名簿の発行予定はありません。

母校存続中は同窓会の主要事業として毎年、卒業式の前に5期又は3期分の卒業生及び先生方(現・旧)の名簿を作成し、新入会員へ配布してまいりました。

しかし晩年は卒業式の当日に校門付近で待つていて、卒業生名簿を1冊1万円で購入すると声をかける名簿業者が現れました。実際に売り渡す例が発生したため、学校から注意を受け、その後、卒業生配布用に住所を削除した名簿を別途作成したため、費用がほぼ倍になり、困惑したことがあります。

名簿の作成は同窓会の重要事業であり、そのために名簿データは、常時更新しており、住所変更の情報は総会案内返信の他お手紙、ファックス、電話、最近はメールでも載っています。ただし、マスターデータは、オフラインのパソコンで管理し、インターネットには接続しません。オンラインでないため手間はかかりませんが、データの安全を優先しています。

最近個人情報保護法が制定された

◎会員数の把握状況

区 分		在籍数	確認数 (亡)
正 会 員	高輪第1本科	771	99 (67)
	高輪第2本科	768	52 (72)
	麻布第1本科	485	180 (102)
	港・全日	3,866	729 (52)
	計	9,773	4,305 (166)
特 別 会 員	現職員	0	0 (0)
	旧校長	15	7 (8)
	旧職員	626	361 (101)
	計	641	368 (109)

こともあり、個人データの取り扱いには慎重な対応が必要と考えています。会員皆様のコンセンサスを得ながら、対処方法を検討したいと存じます。ご意見、ご要望をお待ちしています。

但し、個々のお問い合わせや、クラス毎等の要望については個別に回答又は送付しますので、事務局まで一報下さい。

※港工同窓会があることをご存知無い方が多数います。クラス会等がありましたら、同窓会のPRと、住所資料の送付をお願いします



平成16年度定期総会

都立港工業高等学校の卒業生への諸証明の発行について

閉校に伴い、卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。

〒144-8506  
大田区東六郷2-18-2  
京浜急行「雑色」下車徒歩3分  
TEL 03-3737-6565

ご不明の点につきましては、東京都教育庁高等学校教育課 TEL 03-5321-1111 へお問い合わせ下さい。

母校記念誌等の在庫案内について

○創立50周年記念誌

平成8年11月30日大手町サンケイ会館で式典が開催された

○定時制閉課程記念誌 (CD付)

平成15年3月8日母校で式典、芝公園メルパルクでお別れ会が開催された

○閉校記念誌 (DVD付)

平成16年3月6日母校で式典、芝パークホテルでお別れ会が開催された

それぞれに同窓会が参加しており、記念誌の予備を購入しています。購入ご希望の方は頒布しますので事務局へ一報ください。

なお

・第56回卒業式、閉校式典及び

フォーエバー愛宕(港工の集い)当日の様相を撮影して、約40分に編集したDVDを作成してあります。

母校最後の様子をご覧になりたい方、クラス会等で活用できる方は一報下さい。貸与又はコピーをお送りします。

◇事務局からのお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い

平成16年3月に最後の卒業生を迎え、入会金を徴収した後は収入が絶えることになるため平成13年6月の定期総会に会則の改定を提案、可決され「卒業後5年を経過した会員は賛助金として年額2,000円を納入すること」になりました。

平成14年度は824名、15年度は701名、16年度は561名の会員から送金戴きましたので同窓会ニュースを発行し、振込み用紙同封で送ることが出来ました。

賛助金の納入は毎年かとの質問があります。任意につき毎年でなくても結構です。但し現状は減少傾向にあり、より多くの会員の賛同をお願いする次第です。

※郵便局のATMを使えば

①土曜・日曜も振込み出来ます。

②ATMに同封の用紙をそのまま挿入すればOKです。

(手数料は同窓会負担です)

同窓生及び先生方の会員名簿の維持管理並びに同窓会ニュースの作成、発行を継続するため是非とも会員各位のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

◎同窓会の財政状況について

平成16年度は新入会員が無くなく、初めて賛助金のみで運営しました。実質的には約6,000名に送った総会案内、振込み用紙、会報の作成及び発送に94万円並びに、1,500名に絞った、秋の文化祭案内はがきの作成、郵送に11万円が支出の殆どを占めています。

発送数を絞ることは縮小、消滅につながり、極力避けたいと存知ますが、賛助金が減少傾向にあり、17年度は賛助金納入実績のある会員及び特別会員(先生方)に限定しましたのでご了承下さい。

同窓会の維持、発展のためには、現在37%約5,400名の住所確認者数を51%8,000名以上に広げて、賛助金収入の安定化、会報の内容充実と全員発送を継続して行う必要があります。しかしながら現状は先輩方から引継いだ基本財産を減少させないよう維持するのみで、活用するに至っていません。今後はクラス会情報、会員及び先生方の近況等寄稿文を掲載し、又ホームページを開設して会員相互のコミュニケーションの場を提供したいと考えています。ご意見、ご提案をお寄せ下さい。

☆平成16年度の収支状況

前期繰越額	2,953,787.-	
収入の部	1,587,242.-	
臨時会費		432,000.-
賛助金 561名		1,122,000.-
その他		33,242.-
支出の部	1,574,856.-	
総会費 56名		466,431.-
通信費		623,710.-
広報費		383,922.-
その他		100,793.-
次期繰越額	2,966,173.-	

☆同窓会会務の連絡先について☆

住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会近況等々は全て下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7  
 (株)クリーンジャパン内  
 港工同窓会 松岡信之  
 (会計理事 港16期s39A卒)  
 TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851  
 E-mail : matsuoka@cleanjapan.net

編集後記

新しい形での港工同窓会がスタートし一年が経過しました。平成16年4月に開校の都立六郷工科高校。この校内施設にお世話になり毎月一回の定例理事会が開催されました。

平成16年度定期総会も萩原六郷工科高校学校長の参加をいただき盛会のうちに閉会しました。

10月に開催された秋の文化祭は「六郷祭」となすけられ楽しい企画と若さあふれる展示コーナーは、見ごたえがありました。わが港工同窓会も参加し、多数の関係者が展示コーナーを訪れました。

港工同窓会ニュース第4号。年度末のご多忙のなか六郷工科高校・萩原学校長、阿部事務室長をはじめ多くの方のご協力とご支援のお陰で発行出来ました。厚く御礼申し上げます。

最後に成りましたがインターネットのホーム・ページ開設に情熱を傾けられた龍理事と町山理事に深く感謝いたします。

14期(定) 安江弘吉  
 6期(全) 龍 健治  
 22期(全) 町山 茂